

Israel Unveiled Vol 1: Jordan River ヨルダン川

英語版オリジナル 2017年3月17日公開 : <https://youtu.be/gZ-nsXrbuWw>

メッセージ by Amir Tsarfati /Behold Israel : <http://beholdisrael.org>

日本語訳 by ガスタフソンあつみ / 校正 By 武田照子 : <https://youtu.be/qsRkISqapuk>

字幕 by 木下言波 Divine US : <http://divineus.org/>

YouTube チャンネル <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

さあ、ヨルダン川です。イエスがヨハネから洗礼を受けられた場所です。私の知る限りでは、ヨハネはバプテスト派ではありませんでした。ヨハネは、ユダヤ人祭司の家系の出身で、悔い改めを叫んでいました。彼は、「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」と荒野で叫ぶ者の声でした。そしてイエスこそが、まさにヨハネがその道を用意したお方だったのです。ちょうどこの場所では、イエスのバプテスマだけでなく、イスラエルの歴史上、大変重要な出来事も起きています。荒野をさまよっていた民が、約束の地へ入るためにヨルダン川を渡ったのです。ヨルダン川は、イスラエル最北端のヘルモン山の地下に端を発しています。実際、ヨルダン川の水は、ヘルモン山の地下から湧き出た雪解け水です。その雪解け水が、3つの小川となって地上に流れ出し、それらが1つの川となっているのです。ヨルダン川の主流は、ダン川です。それで「下る流れ」という意味のヨルダンという名前がつけられました。それは「ヨル」と「ダン」という2つのヘブル語の単語から出来ていて、「ダン」は「下る」という意味です。ヨルダン川は、遙かイスラエル北部に端を発し、ガリラヤ湖に流入します。そしてガリラヤ湖から160キロ蛇行しながら死海の手前のこの場所に至ります。そして、ここから1.6キロ先の最終地点である死海に流れ込んで終わります。

ここは、約束の地に入る直前に、ヨシュアがイスラエルの民を野営させた、まさにその場所です。私たちは、モーセがネボ山にいたことは知っています。モーセは、約束の地に入ることが出来ませんでした。そして、ヨシュアがモーセの後継者となり、イスラエルを約束の地に導き入れるよう任命されたのも知っています。それはイスラエルの歴史において、非常に興味深い瞬間でした。それは、イエスがこの場所に来られた時に起こった出来事と、非常に美しい類似性があります。

私たちは、イエスご自身がここに来られて、この場所で公生涯を始められたことを知っています。ヨハネが、悔い改めのバプテスマを人々に叫んでいた時に、イエスが近づいて来られました。ヨハネはイエスを見るや否や、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。(ヨハネの福音書1:29)」と言いました。興味深いのは、ユダヤ人の考え方では、「神の子羊」とは、「過越しの子羊」を思い起こさせるものなのです。屠殺されるべき子羊です。最終的には、ユダヤの民を奴隷から自由にする子羊です。家の2本の門柱にその子羊の血を塗っておく事で、主の御使いが彼らの家々を通り越すのです。エジプト人たちが初子の死を嘆いている間に、イスラエル人たちは旅を始めることが出来ました。奴隷であった地から約束の地へと、民族的脱出を始めることが出来たのです。それで、ヨハネがイエスを見て、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」と言った時、ヨハネは、心の中で過越しの子羊が見えていました。そして、その美しい出エジプトの話は、明らかにこの場所に関連しています。イスラエルの民は、まさしくこの地点で、正式にエジプトからの大移動を終結し、約束の地への入国を始めようとしていました。イエスが、ヨルダン川の水の中に入って行くと、そこでおそらく初めて、三位一体の全容が見事に表示されたのです。子なるイエスが水に足を踏み入れます。父なる神が「これはわたしの愛する

子」と宣言します。そして聖霊が白い鳩のようにイエスの肩に下りました(マタイの福音書3:16)。なんと見事に、神の三位一体が表わされているのでしょうか。神ご自身が、まさにこの場所に現れたのです。

また、それより1500年前には、ここで驚くべき事がもう一つ起こっていました。聖書には、イスラエルの民がヨルダン川の水の中に足を踏み入れた時、突然、水はせき止められ、水の層が積み重なるか、水の積み重ねが空に向かって盛り上がり始めた、と書かれています(ヨシヤ記3:16)。百万人を超えるイスラエル人が、東から約束の地のある西に向かって、一斉にヨルダン川を渡らなければなりません。何とも驚くべき神の力、神の権力、神の強さ、神の主権の顕れでしょうか。

エリコは、こちらの反対側にあります。聖書によれば、イスラエルの民は、エリコから正反対の場所にいました。私たちは今、地理的にエリコの町のちょうど反対側にいます。2つの物語の間にあるさらなる類似点を見ていくと、驚きます。その地へ入るための準備として、契約の箱を運び、信仰によってヨルダン川の水の中に足を踏み入れるのは、祭司の務めでした。今、私の下方にあるのはヨルダン川ですが、ヨルダン側にはヨルダン兵たちがいます。信じられないでしょうが、ヨルダン川は、この私の頭上を越すほどの水かさになることもあります。事実、私がエリコとヨルダン渓谷全体の副知事だった頃、この場所に来ると、川の水位が、今立っている私の背丈を超えていたことがありました。聖書には、ヨシヤ記第3章に、イスラエルの民が約束の地へ渡ろうとしていた時のヨルダン川は、溢れていた、と書かれています。実は、川の両側共に溢れていたのです。それは雨期の直後でした。ガリラヤ湖を溢れさせ、ヘルモン山を埋め尽くす程の雪をもたらしたその豪雨が、ヨルダン川に激流を起こしたのです。最終的に、水は想像を絶するレベルでこの一帯まで溢れました。

それほど深い水の中に足を踏み入れるのは大変勇気が要るものですが、非常に重い物を運んでいる場合は、特にそうでしょう。

契約の箱の中には、イスラエルの罪深い性質を象徴する物が入っていました。まず、十戒が刻まれた2枚の石の板です。2枚の石の板は、人々の罪深い性質のゆえに与えられました。その戒めは、主なる神が人間の心の罪深さを知っておられて、定められたものです。また、箱の中には、マナの入った壺も納められていました。それは、イスラエルの民が、エジプトで食べていた肉を恋しがり、神の恵みと荒野で授かったすべての食糧の事を忘れて、いかに不平不満を言ったかを示すものでした。それで神は、そのマナの壺によって、それを彼らに思い起こさせたのでした。そして、もちろん、芽を出したアロンの杖は、イスラエルの民の不信仰を示すためでした。またそれ故に、彼らがついには信じるようになるために、神がその杖を用いてしるしと不思議を見せなければならなかった事を示すものでした。

信仰に欠け、感謝に欠け、心には多くの罪深い考えを抱えていた事、これら全ての事が、契約の箱に納められていた品々によって象徴されていました。概して、世の罪が、契約の箱の中に表されていました。

私が非常に興味深いと思うのは、イスラエルの民が約束の地へ向かう途中、ちょうどこの場所で、ヨルダン川の深みに足を踏み入れる必要があったことです。それは、イエスが水の中に入るためにヨルダン川に来られる、約1500年前の出来事でした。その2つの出来事の類似点を見ると驚くばかりです。

イエスは、水に入る必要はなかったのに、ヨルダン川に来られました。考えてみれば、イエスには洗礼を受ける必要はありませんでした。イエスは罪を犯しませんでしたから、罪の免除のために洗礼を受ける必要はなかったのです。しかし、イエスは、私たちに模範を示すことを望まれたのでした。ちょ

うど神が7日目に休まれたのと同じです。それは神がお疲れになっていたからではありません。神は私たちの能力をご存知です。私たちの限界を知っておられるので、神は私たちに休み方を学ばせようとされました。それと同じように、イエスは来られて、川の水に入って行かれました。私たちがイエスへの信仰を公に表明するために、やがてしなければならぬ事の模範を、私たち全員に示してくださいました。イエスへの信仰だけではありません。イエスの死と復活に、自分自身も与っていることを公にするものでもあります。罪深い性質を持った古い人に死に、罪を忘れられ、罪を赦され、イエスと共に復活します。そして、キリスト・イエスにあって新しく造られた者となるのです。

私たちは水に入っていくと同時に、象徴的に、罪深い人生を水の中に沈めて、私たちの約束の地へと入って行きます。

神は私たちに、キリストにある自由な人生を約束してくださっています。聖書には、御子を持つ者は、本当に自由であると書かれています。

「もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

(ヨハネの福音書8:36)」

イスラエルの民は、束縛の地、奴隷の地を去り、彼らの約束の地に入りました。私たちが、イエスが命じられた通りに水の中に入る時、私たちはその罪の人生を水の中に沈めて、私たち自身の約束の地に入るのです。

イエスが、洗礼を受けられた直後に、御霊に導かれて荒野に上って行かれた、と聖書に記されているのも感動的です。荒野の誘惑です。ヨシュアはイスラエルの民に、彼らとその川を渡って、その約束の地に入るとすぐに誘惑が待ち構えている、と警告しました。だからこそ、ヨシュアは「私と私の家とは、主に仕える。(ヨシュア記24:15)」と言ったのです。

彼はイスラエルの民に警告しました。「誘惑があるだろう」と。「その地には、あなたたちを主に従わなくさせるようなものが非常に沢山あるだろう」と。私たちがしっかり掴むべきものは、神のみことばです。私たちがしっかり抱き続けるべきものは、神の御約束です。私たちが従うべきものは、神様のご意思です。そうでなければ、私たちは、堅く立って、強められ、耐え、全ての誘惑を退けることは出来ません。

ご存知の通り、荒野で誘惑を受けられたイエスは、神によって誘惑されたものではありません。神はその誘惑をお許しになりましたが、誘惑は決して神から来るものではありません。それは、他でもないサタンからのものです。誘惑は、私たちが堅く立ってそれを退けるなら、人格を高めます。これは試練なのです。そして私たちが神のみことばに根差していなければ、私たちは決してその試練に耐えることは出来ません。

イエスは神のみことばを使ってサタンを退け、誘惑に勝利されました。

イスラエルの民は、ちょうどこの場所で、ヨシュアから、神のみことばを手放さず、昼も夜もそれを口ずさむようにと、警告を受けました。それは、彼らが約束の地に入る時、誘惑に立ち向かうことが出来るためでした。

あなたの信仰は今どんな状態ですか。

主との歩みにおいて、あなたはどこにいますか。

あなたは洗礼を受けていますか。

あなたの洗礼は、本当に古い人の死を象徴するものでしたか。

あなたはイエスと共に死に、イエスの復活の力を帯びて水から上がって来ましたか。

あなたはキリストにあって新しく造られた者ですか。

あなたは神のみことばを知っていますか。

あなたがあなたの約束の地に入って、誘惑が待ち構えている時に、あなたはみことばによって誘惑を退け、強められるのです。

さあ、あなたの人生のヨルダン川を渡る時が来ています。大きな信仰の一步を踏み出す時です。神があなたの面倒を見てくださることを確信して、水の中へ、時には未知の領域へ、束縛と怖れと奴隷マインドに別れを告げ、あなたの約束の地に入る時です。誘惑がすぐそこに待ち構えていることを知り、みことばに深く根差し、備えをする時です。恐れに打ち勝ち、信仰によって、主があなたに約束されているものを掴む時です。悪い習慣や悪い仲間から離れ、あなたの約束の地に入る時です。

ヨシュアがイスラエルの民に告げたことを一つ挙げるとすれば、「雄々しくあれ。恐れてはならない」でした。

勇気は神から与えられるものです。

あなたはそれを求めさえすれば良いのです。そしてピリピ人への手紙4章19節にある通り、

「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。(ピリピ人への手紙4:19)」

あなたのヨルダン川を渡ってください。

信仰によって、あなたの約束の地に入ってください。

神のみことばに立って、忍耐し、誘惑を退けてください。

神の祝福がありますように。